定例記者会見資料
令和2年11月24日
博物館(南吉記念館)

第32回　新美南吉童話賞について

１．趣　　旨　　郷土出身の童話作家・新美南吉とその作品を、また、ふるさと半田を広く知ってもらうために創作童話を募集しました。その結果、46都道府県及び海外からも応募があり、応募総数は1,966点となりました。11月4日（水）に最終審査会が終了し、入選者が決まりましたので報告します。

２．応募内訳

一般の部	…	1079点（847）
中学生の部	…	440点（405）
小学生高学年の部	…	45点（55）
小学生低学年の部	…	31点（28）
新美南吉オマージュ部門	…	371点（226）
合計	…	1,966点（1,561）

※（　）内は、令和元年度の点数

３．審 査 員　　藤田のぼる（児童文学評論家）
酒井晶代（児童文学研究者）
富安陽子（児童文学作家）
山本悦子（児童文学作家）
知多管内小中学校教諭ほか

４．入選者　　裏面資料を参照

５．今後の予定　　〇新美南吉記念館ＨＰにて、受賞者、一次審査通過者、最優秀賞・大賞作品を公表。
〇令和３年２月20日（土）に表彰式を開催し、併せて入選作品集「赤いろうそく」を発行。

６．表 彰 式　　日時：令和３年２月20日（土）　午後２時より
会場：半田市市民交流センター
※新型コロナウイルスの感染状況により、中止することもあります。

７．入選作品集　　令和３年２月20日に表彰式に合わせて発行。

第32回新美南吉童話賞　審査結果

11月24日時点

最優秀賞

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	年齢	住　所	備考
最優秀賞 （文部科学大臣賞）	北風のおくりもの	カワイナミ 河合南美	41	愛知県豊橋市	筆名

一般の部

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	年齢	住所	備考
優秀賞 （愛知県知事賞）	さわがしいおとしもの	ネコリハコリ	61	東京都新宿区	筆名
優秀賞 （半田市長賞）	チューリップを探して	アマリミカコ 天利美香子	60	神奈川県横浜市	
特別賞 （ミツカン賞）	星の休日	いいだしんや	60	愛知県名古屋市	筆名
特別賞 （知多信用金庫賞）	すずめのチュンとたんぽぽ	オハラコエダ 小原小枝	47	愛知県名古屋市	筆名
特別賞 （中部電力ﾊﾟﾜｰｸﾞﾘｯﾄﾞ株式会社賞）	キノコ侍	ナツメチカ 夏目知佳	31	宮崎県えびの市	筆名

中学生の部

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	学年	住所	備考
優秀賞 （公益社団法人半田青年会議所賞）	国民の願いと王様	サイダカンイチ 宰田貫市	中３	大阪府大阪市	大阪教育大学附属天王寺中学校
特別賞 （半田信用金庫賞）	おすそわけ	カワシマフウカ 川嶋風香	中２	愛知県岡崎市	愛知教育大学附属岡崎中学校
佳作	ようこそ、本の国へ	オギノスズホ 荻野寿々帆	中１	大阪府堺市	大阪教育大学附属天王寺中学校
佳作	二人のピアニスト	ハヤシトオル 林亨	中１	大阪府大阪市	大阪教育大学附属天王寺中学校

小学生高学年の部

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	学年	住所	備考
優秀賞 （審査員奨励賞）	ごほうび付きのお助けバッチ	ナカムラサヤ 中村紗也	小５	愛知県安城市	安城市立里町小学校
佳作	星野原	タケダリオ 武田理央	小６	東京都板橋区	板橋区立中台小学校
佳作	星空ホテルへようこそ！	ヤスダキョウカ 安田京加	小４	兵庫県神戸市	神戸市立西須磨小学校

小学生低学年の部

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	学年	住所	備考
優秀賞 （中日新聞社賞）	少年たんてい団	ナカムラテッセイ 中村哲誠	小３	愛知県安城市	安城市立里町小学校
佳作	おもち町　うんどう会	ヤスダユウカ 安田侑加	小２	兵庫県神戸市	神戸市立西須磨小学校
佳作	はるくん　と　ちいさなお月さま	ヤマグチケイ 山口慧	小２	愛知県知多郡阿久比町	阿久比町立東部小学校

新美南吉オマージュ部門

部　　門	受賞作品名	受賞者氏名	年齢	住所	備考
大賞 （半田市教育委員会賞）	マーガレット （作品：手袋を買いに）	ヒサモリメリイ 久守芽里依	小５	愛知県安城市	安城市立桜町小学校
優秀賞 （半田市議会議長賞）	おばあさんと子ぎつね （作品：狐）	ヤシロミノル 矢代稔	66	神奈川県横浜市	
特別賞 （新美南吉顕彰会賞）	小雪のおつかい （作品：手袋を買いに）	イトウリツカ 伊東葎花	59	茨城県稲敷郡美浦村	筆名
佳作	世界の色は何色か （作品：にひきのかえる）	サカイエリカ 酒井絵理香	29	愛知県刈谷市	

最優秀賞受賞作品

「北風のおくりもの」

河合　南美

北風がぴゅーぴゅー吹いて赤や黄色に色づいた木の葉は山の向こうに遠くとおく飛ばされて行きました。

もうすぐ冬が来ます。

二匹のくまの親子は暖かな穴ぐらで風のごうごうという音を聞きながら長い冬眠にはいろうとしていました。

「ねぇ、かあさん……ぼく　ちっとも眠れないんだ」

くまの子は、うとうとしている

かあさんぐまをゆすって起こしました。

「目を閉じてどんぐりが落ちてくるのをかぞえてみたら？」

かあさんぐまは目を開けずにそう答えました。

「どんぐりがひとつ」

「どんぐりがふたつ……」

……

「どんぐりがさんじゅう……にの次はなあに？」

くまの子はまたかあさんぐまを起こします。

「眠れないの？」

「うん。もしもぼくが寝ている間にリスくんもネズミくんもぼくの事を忘れてしまったらどうしよう」

「あんなにいつも一緒に遊んでいたのに忘れてしまう事はないんじゃない？」

「でも春はずっとずっと先でしょ？

……ぼくは心配なんだ」

くまの子が言いました。

「そうね……ならリスくんとネズミくんに手紙を書いたら？　春になったらまた遊ぼうねって」

「そうだね。それは良い考えだね」

ほっとした様子でくまの子は落ち葉のふとんの中から大きな葉を二枚選ぶと手紙を書きはじめました。

『リスくんへ、春になったら小川に一緒に行こうね、

ぼくの事をおぼえていてね　くま』

『ネズミくんへ、春になったら野原へ行って花かんむりを作ろうね。冬の間ぼくを忘れないでね　くま』

手紙を書き終わると玄関ドアを小さくそっと開けて「北風さん、この手紙をリスくんとネズミくんのおうちまで届けて」

と言いました。

すると、北風がぴゅーと一段と強く吹くとくまの子が手に持っていた二枚の手紙を空高くつれて行きました。

「さあ、温かいふとんに入って」

北風に乗って小さくなってゆく手紙を見送っていたくまの子にかあさんぐまが言いました。

「うん」

くまの子は冷えた体をまだ温もりの残る落ち葉のふとんにもぐり込ませてそっと目を閉じました。

そしてまた、くまの子が言います。

「ねぇ、かあさん……ぼく　ちっとも眠れないんだ……」

「ほかにも心配な事があるの？」

かあさんぐまがくまの子にたずねます。

「もしもぼくが寝ている間にはるが迷子になったらどうしよう……」

「はるが迷子？」

「そう。ぼくのところだけずっと冬だったらと思うと心配で眠れないんだ」

かあさんぐまはうっすらと目を開けて少し考えた後

「はるが通り過ぎないようにおうちの前に看板を出しておいたら？」

と言いました。

くまの子はぱっと目を輝かせて

「そうだね。それは良い考えだね」

と答えました。

そうして二人はゆっくり起き上がると玄関ドアの前に看板をつけました。

『はるさんへ、ぼくはここに居ます』

「これで安心ね。はるも迷わずうちに来てくれるはずよ。さあ、目を閉じて」
木の葉のふとんにゴソゴソともぐり込みながらかあさんぐまは言いました。
「うん」
目を閉じると外で風に揺れる落ち葉の音がいっそう大きく聞こえる気がしました。
しばらくしてまたくまの子が言います。
「ねぇ、かあさん……ぼく　ちっとも眠れないんだ……」
申し訳なさそうに小さな声でくまの子は　言いました。
「怖い夢でも見たの？」
「そうなんだ。寝ている間にかあさんが居なくなっちゃう夢を見たんだ。どうしよう」
涙声でくまの子は言いました。
かあさんぐまはくまの子を胸に抱きよせて
「かあさんはここに居るわ。大丈夫よ」
と優しく言いました。
「本当に？ずっと居る？」
「ええ」
「でもぼくは心配なんだ……」
「そうね、なら手をつないで寝るのはどう？それなら真っ暗でもかあさんが隣に居るのがわかるでしょ」
「うん」
暗闇の中でかあさんぐまの手はしっとりと温かくくまの子は今度こそ眠れそうな気がしました。
でも、しばらくするとまただんだん不安になってきました。
もう暗闇のせいなのか風の音のせいなのか自分でもよく分からないけれどモクモクと黒い気持ちが広がっていくのです。
かあさんぐまとつないだ手に力を込めました。そして、くまの子は目をギュッとつむって体を小さく縮ませて早く眠れるよう早口でどんぐりを数えました。
その時です。

静かな部屋にガタガタガタッと大きな音がひびきました。

くまの子はガタガタとふるえながら体を起こすと勇気をふりしぼって

音のした玄関ドアのほうに向かいました。

すると、ドアの下から2枚の手紙が見えました。

「あ、手紙のお返事かしら？」

心配してついてきたかあさんぐまが言いました。

『くまくんへ　はるになったらお弁当を持ってピクニックに行こうね　君のことはぜったいに忘れたりしないよ　リス』

『くまくんへ　はるになったらさくらを見に行こうね　それからリスくんも一緒に三人でおだんごを食べよう　ネズミ』

手紙を読んだくまの子はニッコリ笑ってかあさんぐまに言いました。

「ぼくワクワクして眠れないや」

二人は顔を見合わせ大きな声で笑いました。

そしてはるが来るのが待ち遠しくなりました。